

ご挨拶

令和四年一月

曹洞宗 奕葉山 昌傳庵

住職 今成 幸裕
副住職 今成 健二

謹んで新年のご挨拶を申し上げます

今年寅年ですね。虎は千里を行っては千里の道を帰ってくると言われます。

このように、何でも帰れることが出来ればいいでしょうが、絶対に帰ってこれないものがあります。それは「時」です。

この世は「無常」 時は過ぎて行き、永遠に常なるものは無い訳であります。

この寺報の裏の写真は平成の初めの頃、約三十年前のものです。写真を見ながらその頃を思い出しました。今では、私もその当時の父母の年齢になり、子ども達はその当時の私の年齢になっています。

「無常」とはいえ、子どもがまだ小さく父母も元気でいた「あの頃は良かった」と思います。今では父母はいなくなり、若い頃から親しくしていた檀家の方もいなくなり、古き良き日は遠い過去の彼方に過ぎ去ってしまっております。

しかし、あれから三十年後の今では、子ども達も大きくなって子も生まれ、私たちはおじいちゃんおばあちゃんになり、新しい「時」の中に暮らしております。

そとうとうしゆう えきようざん しょうでんあん

そして「日々是好日」です。晴れの日であれ雨の日であれ、楽しい日でも苦しい日でも、この一日一日は好き日なのです。

あの楽しかった過去の日も好日、その時に居た誰もいなくなった今の日も好日、これから来る日も好日なのです。私たちはその一日一日、いやその一瞬一瞬に一生懸命に生きて行くのです。

先住職の十三回忌法要を厳修



導師をご本寺住職にお願いし、法要しました

今年の大般若法要も中止にします。

昨年一昨年も、新型コロナウイルスが終息せず、もしかしたら開催できるのではないかと淡い期待を抱いて実施する予定でいたのですが、結局は終息が見られず、土壇場で中止せざるを得ませんでした。

昨年秋頃からは、ワクチンの2回接種も功を奏して新規感染者の数も減ってきて、様々な規制も解かれ出して参りました。しかし、まだ3密を避ける対策もしなければならず、また土壇場で中止を宣言するよりは、今年も大事をとって中止することに致します。

裏面もご覧ください。

導師を昌伝庵の御本寺の白鷹町瑞龍院長谷川俊英住職(米沢市輪王寺住職兼務)にお願いし、末寺のお寺様と総代の方六名と親族に臨席して頂き、コロナ禍の中、参列者を縮小して法要を行いました。

懐かしの写真 No. 4

今回は、約30年前 平成元年～5年頃の様子をお知らせします。



大雪の日の参道。 消雪で水が出るようになっていますが、1月の厳寒期になると水が枯渇して出なくなり結局はスノーダンプで表の道路まで運んでいました。



↑ 水の出なくなった参道70mの道つけ。平成17年4月に井戸を再掘削し、水は出ますが現在も道つけは当然必要です。



平成2～3年頃、市の下水道工事始まる。檀信徒会館や庫裡から下水道管を敷設する為参道の消雪道路を壊して掘削し埋設しています。



駐車場を掘り、下水道管を表の道路まで繋げていきます。周りが墓地や田んぼの為に、このように掘削し埋設せざるを得ません。



平成5年9月。境内墓地の樹木を十数本伐採しました。

大木になると根が張り、墓を持ち上げたりして、墓が傾いたりします。また、アメシロが付いたりして駆除も大変です。

大きな実のなる栗やクルミの木も数本ずつ、実のなるイチヨウや桜の大木も伐採しました。緑陰の墓地だったのが、今の様になりました。落ち葉掃きがずいぶん楽になりましたが…。

